



札幌医科大学学術機関リポジトリ *ikor*

SAPPORO MEDICAL UNIVERSITY INFORMATION AND KNOWLEDGE REPOSITORY

Title	アルバータ大学看護学部の学部・大学院教育の概要報告
Author(s)	今野, 美紀;吉野, 淳一;片寄, 正樹
Citation	札幌保健科学雑誌,第 2 号:101-105
Issue Date	2013 年 3 月
DOI	10.15114/sjhs.2.101
Doc URL	http://ir.cc.sapmed.ac.jp/dspace/handle/123456789/5566
Type	Research Paper
Additional Information	
File Information	n2186621X2101.pdf

- ・コンテンツの著作権は、執筆者、出版社等が有します。
- ・利用については、著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲内で行ってください。
- ・著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲を越える利用を行う場合には、著作権者の許諾を得てください。

報 告

アルバータ大学看護学部の学部・大学院教育の概要報告

今野美紀¹⁾、吉野淳一¹⁾、片寄正樹²⁾

¹⁾ 札幌医科大学保健医療学部看護学科

²⁾ 札幌医科大学保健医療学部理学療法学科

筆者らは、2012年9月にカナダのアルバータ大学看護学部を訪れ、看護学部教員らとの面談を通じて学部・大学院教育の概要を知り、病院を見学する機会を得た。学部教育では、講義形式もあるが、双方向の実践体験学習を重視しており、具体的な教育戦略として(1)チュートリアル学習、(2)ラボラトリー学習、(3)臨床実習、(4)多職種学習を行っていた。大学院教育では、修士課程はAdvance Nursing Practiceに方向転換し、博士課程は質の高い研究者を養成するカリキュラムが組まれていた。実習病院でもあるRoyal Alexandra 病院NICUにおいては、ファミリーサポート等が行われ、子どもと家族の権利が尊重されている環境を中心にみる事ができた。研修を通じ、本学の教育活動への示唆を得た。

キーワード：アルバータ大学、看護学部、学部教育、大学院教育

Report on the Visit to the University of Alberta and Royal Alexandra Hospital in Canada: Outline of the Undergraduate and Postgraduate Programs at the Faculty of Nursing

Miki KONNO¹⁾, Junichi YOSHINO¹⁾, and Masaki KATAYOSE²⁾

¹⁾ Department of Nursing, School of Health Sciences, Sapporo Medical University

²⁾ Department of Physical Therapy, School of Health Sciences, Sapporo Medical University

In September 2012, we had an opportunity to visit the Faculty of Nursing of University of Alberta, where we met teaching staff to discuss their undergraduate and postgraduate programs, as well as one of the largest hospitals in Alberta. The undergraduate program consists of (1) tutorials (seminars), (2) laboratory experiences, (3) nursing practice and (4) inter-professional learning, with a clear focus on interactive experiences and practice. The Master's course focuses on advance nursing practice, while the PhD course is designed for academic excellence with an emphasis on the development of high quality academics and experts. The NICU at the Royal Alexandra Hospital has a child/family-centered environment where the rights of children and family are honored and a family support program is in operation. The visit was thought-provoking and useful ideas were brought back that could be applied to educational activities at the School of Health Sciences, Sapporo Medical University.

Key words : University of Alberta, Faculty of Nursing, Undergraduate Program, Graduate Program

Sapporo J. Health Sci. 2:101-105(2013)

はじめに

筆者らは、2012年9月にカナダのアルバータ大学（University of Alberta, 以下、UAとする）を訪問する機会を得た。UAには18学部があり、UA医学部と本学医学部、UAリハビリテーション医学部と保健医療学部理学療法学科・作業療法学科間で既に学部間協定の実績がある。この度、筆者らはUA Edmonton Clinic Health Academy (ECHA) 内にある Global Nursing Officeを訪れ、資料1に示した看護学部教員らとの交流を通じてUA看護学部の学部・大学院教育について知る機会を得、さらに実習病院の見学から、本学の教育活動への示唆を得たので報告する。

1. University of Alberta, Faculty of Nursing, Undergraduate Program

1) 学生とプログラムの概要

1学年は約100名で現在約500名の学生が在籍している。学部教育年数は高校卒業後、4年間であるが、学生の教育

背景に応じて特徴的な教育プログラムがある。それは4年間の①Bachelor of Science in Nursing (以下BSCNと略す)－Bilingual Programと②BSCN－Honors Programである。①はカナダの公用語である英語とフランス語のバイリンガル学生のためのプログラムでECHAとSaint-Jeanキャンパスと協力しながらの運営である。②は学部1年次の成績がGPA 3.5以上の優秀な学生向けのプログラムで、研究を学べる特別な学習内容が組み込まれている。そして、看護以外の学士を既に取得した人向けの2年間の③BSCN-After Degree Programと、既にRegistered Psychiatric Nursing Programを終えた人向けの2年間の④Registered Psychiatric Nurse to BSCN Degree Programである。なお、学部の入学試験の評価はGPAの得点でなされ、看護師としての資質（例えば優しさ、誠実さ）は試験では評価できないと考え、面接試験は行われていない。

2) 学習方法

授業は講義形式もあるが、主に双方向の実践体験学習を重視している。具体的な教育戦略には(1) チュートリアル学習、(2) ラボラトリー学習、(3) 臨床実習、(4) 多職種学習がある。

資料1 University of Alberta研修概要

2012年9月17日 (月)	
9:00	Dr. Anita Molzahn (Faculty of Nursing, Dean) と面談 Dr. Sylvia Barton (Global Nursing Office, Associate Dean) Ms. Leanne Johnson (Global Nursing Office, Director)
10:30	Dr. Carolyn Ross (Faculty of Nursing, Assistant Dean) と面談 Undergraduate Programについて
11:30	昼食会 Global Nursing Office ; 教職員、看護学部教員・院生 プレゼンテーション (今野)
13:00	Dr. Pauline Paul (Faculty of Nursing, Associate Dean) と面談 Graduate Programについて
14:00	Dr. Alex Clark (Faculty of Nursing, Associate Dean) と面談 Researchについて
15:00	Dr. Sylvia Barton (Global Nursing Office, Associate Dean) と面談 Global Nursing Officeについて
2012年9月18日 (火)	
10:30	Dr. Diane Kynyk (Faculty of Nursing, Assistant Professor) と面談 小児保健、喫煙対策の研究動向 / 避難訓練
11:30	Dr. Lynne Ray (Faculty of Nursing, Associate Professor) と面談 小児NPについて
11:30	昼食会 Global Nursing Office教職員
14:00	Royal Alexandra Hospital NICU見学
2012年9月19日 (水)	
12:00	Ms. Leanne Johnson (Global Nursing Office, Director) 研修の振り返り

(1) チュートリアル学習

Context based Learning (CBL) と呼ばれる教育手法を用いて学生教育が行われている。学生は十数名程度のスモールグループに分かれ修士の学位を有したインストラクターの指導のもと、シナリオ学習を展開する。CBLを通じて学生は看護師として生涯学習者に必要となるチームワーク、コミュニケーション、リーダーシップ、クリティカルシンキングを学び、効果的な研究の仕方や学び続ける方法を得ていく。カナダのMcMaster大学医学部で開発されたProblem Based Learning Tutorial (以下、PBLとする) が現在、先進国の医学教育の中で活用されている。人々の健康問題の経験を助けるのみならず、健康でいられるよう実践に携わる看護師の信念に起因して、南アフリカのKwaZulu-Natal大学看護学部の教員がPBLからCBLと命名したといわれている¹⁾。CBL実施においては学部内で委員会をつくり、シナリオ制作、学習状況のモニター、教育方法開発、評価を行っている。

(2) ラボラトリー学習

学生が安全に患者ケアを提供できるよう、最先端の患者シミュレーション装置を備えて学習する機会を提供している。ここでもCBLが展開されている。具体的には、学生は7名2グループでシナリオに沿い、コンピュータ制御が可能な患者(人形 写真1)に最新の医療機器や練習用の医薬物品(写真2)などを用いてケアを展開する。その別室にはアドバイザーがおり、彼らは病室のマジックミラー越



写真2 模擬血液が用いられた練習用輸血セット

しに学生のケアの実施状況の評価しており、患者の条件(例えばバイタルサインの値など)を変えていく。4学年分の学習内容に応じて異なる医療用消耗物品等のセットアップや保管は(写真3)、ラボラトリースタッフが担っている。また、修士の学位を有したクリニカルチューターは学生のCBLをサポートしている。このチューターになるには2週間の研修(CBLとは何か、教育戦略、教育評価など)を受ける必要がある。そして、全体のコーディネーターは講師の職位の者が担っている。



写真1 コンピュータ制御が可能な小児のモデル人形

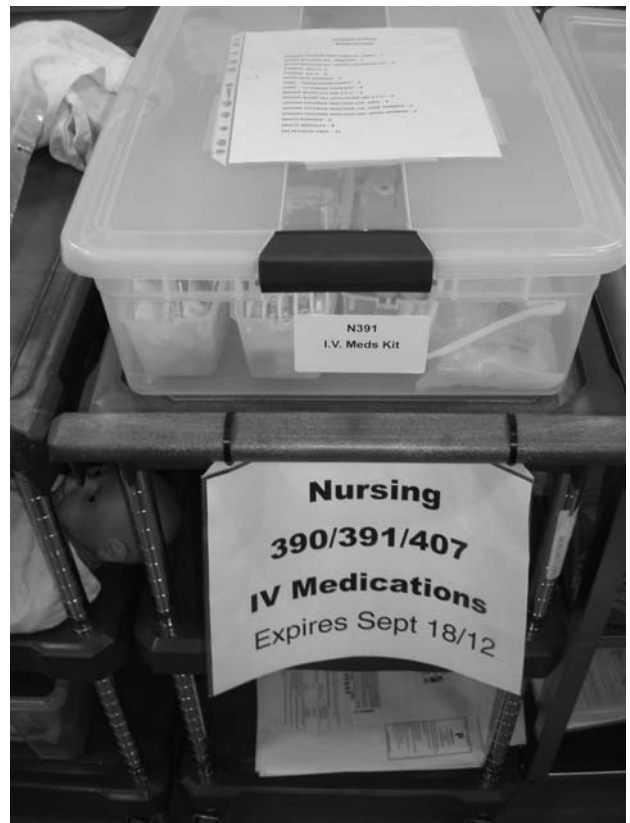


写真3 演習別に必要物品がセットアップされて倉庫に保管

(3) 臨床実習

学部1～3年生は領域別でローテーションしながらの臨床実習を行う。4年生の最終実習では学生の希望を取り入れ、マッチングさせて行っている。実習地域は、アルバータ州のみならずカナダ国内の他の州、時には海外も含まれている。学生の実習場での専門的学習が促されるように学習支援するプリセプターが実習に同行している。プリセプターは大学で行われる2～3日の講習会を受講している。

(4) 多職種学習

UA ECHAには医学部、歯学部、薬学部など医療系学部があり、医療系の多学部の学生が集まり、学ぶ機会がある。具体的な学習内容については把握できなかった。

2. University of Alberta, Faculty of Nursing, Graduate Program

1) 学生の概要

2012年10月末現在、101名の修士課程の学生、72名の博士課程の学生が在籍している。学生の約4割はアルバータ州出身だが、その他はカナダ国内の他の州やブラジル、ガーナ、インドなど全世界から学びに来ている。海外からの留学生の中で、学部教育が英語で行われている場合は問題ないが、英語以外の母国語で授業を受けてきた学生には、英語のレベルに応じてEnglish as a Second Languageクラスの受講を課している。

2) プログラムの概要

教育年限は修士課程の論文コースで最長4年、Nurse Practitioner (NP) コースで6年、博士課程で6年である²⁾。対面教育のあとは、インターネットを活用した遠隔教育が行われている。

修士課程は1975年に開設され、1997年にAdvance Nursing Practiceに方向転換し、社会の変化（高齢化、慢性病有病率増加、ヘルスケア環境の複雑化など）を考慮したカリキュラムが組まれている。NPのコースでは、哲学、看護管理、政策、統計、生理学、薬学などの科目を提供している。パートタイム、フルタイムのコースがあるが、フルタイムの学生が多い。

そして博士課程は1991年に看護学領域としてカナダで初めて開設された。専攻領域の研究に先立ち、哲学、Systematic Reviewなどを学ぶ約2年のコースワークがある。コースワークの課題はかなりの量があり、例えば哲学の課題では、看護理論の中に記されている概念の一つ一つが問われ、同じ概念を取り扱った数編の論文をクリティークして論文間で共通する/異なる概念の内容を明らかにすることを要求される。

論文審査については²⁾、修士論文では3名の教員が必要で、主任指導教授のほか学部内教授1名と学部外の学内教授1名が担っている。そして博士論文では、最低5名の教員が必要で、主任指導教授のほか学内教授2名と学部外の学

内教授1名、そして他大学の専門家1名が担っている。この学外の専門家はテレカンファレンスで審査に臨むこともある。そして学外者が判定で否とした場合、審査に合格しない。学生は博士の学位取得までに研究テーマに関連した論文掲載が義務づけられ、その際、Impact Factorの高い雑誌に投稿することが奨励されている。

現在、Post-doctoral Programとして構成だったものはないが、修了生が主任指導教授の研究プロジェクトに共同研究者として参加することが、その活動になっている。

3. Global Nursing Officeの概要

ここは訪問研究員、国内外の学生、教員のためのリソースとしてサービスを提供している。今回の筆者らの訪問に際してもこの部門の所属教員・秘書が調整を担ってくれた。現在、ブラジル、中国、ガーナ、タイ、米国の看護系大学と提携がある。そして提携に至ってはいないが、韓国の看護系大学との間でインターナショナルプログラムあり、学部学生が6週間、2週間のコースでUAを訪れていた。

PhDコース終了後、多くの留学生は母国に帰るが、Global Nursing Officeでは彼らがその後も大きなプロジェクトの共同研究者としてUAのGlobal Nursing Officeの所属教員や学位を取得した領域の教員とのアカデミックな交流を続けることを支援している。

4. Royal Alexandra Hospital NICU見学

カナダにおける病院の運営は、政府が州に運営資金を配り、州が運営している。この病院はエドモントン市内にある実習病院の一つで、同じ市内のUA-ECHAから地下鉄で20分、バスで15分程度の距離にある。今回の病院見学にはGlobal Nursing Officeの秘書が引率者となり、ブラジル、ガーナ出身のPhDコースの留学生と筆者を含めた6名が参加した。

NICUでは壁に額縁に入った絵画、ベビーの名前・足形が描かれたキルトが飾られており、穏やかな空間を作っていた。病棟は約60床が稼働しており、3チームで患者ケアにあたっていた。チームの職種は医師、栄養士、看護師、NP、呼吸理学療法士などから構成された。24時間の面会が基本で、親が入院児の幼い同胞をつれて面会に来た場合、同胞は入口近くのミーティングルームでChild Life Specialistによって面倒をみてもらえる。NICU内に薬局の出張所があり、薬剤師が薬を準備し、投薬する看護師がダブルチェックをすることがルティーンとなっていた。保育器の横は、親がカンガルーケアをしたり、看護師がモニターや記録するための空間が確保されていた。また、未熟児のベッドサイドには騒音レベルで変化する耳型のノイズメーターがあり（写真4）、ディベロップメンタルケアを動機づける仕組みを取り入れていた。



ノイズメーター

写真4 NICUのベッドサイドにあるノイズメーター

病室以外のスペースも見学させてもらう機会を得、病棟保管庫にはスタッフが救急蘇生の勉強ができるように人形が備えられていた。スタッフ休憩室には新人を歓迎するメッセージが貼られていた。そして、NP用にスタッフとは別の専用部屋が確保されており、NPは退院する事例のケア調整や両親教室の運営などの中心的役割を果たしていた。

本学の教育活動への示唆

学部教育では、CBLが基本で、専門職者が生涯学習者として主体的に学ぶ方法を学生時代から徹底している教育方法に感銘を受けた。講義形式の学習では、学習者の知識定着率は乏しく、使える知識は育まれにくい³⁾。また、看護師が臨床で体験することをシナリオベースのスキル学習を通じて学生は疑似体験でき、教育と実践の乖離を小さくする工夫がなされていた。本学でこうした学習をすぐに適用することは難しいが、学生が主体的に学び、教育と実践の乖離を小さくする学習方法の開発や備品の整備は今後も必要であると感じた。加えて、Horns Programのように優秀な学生を選抜し、特別な教育を施すことは学習意欲のある学生を伸ばす取り組みの一例として一考に値すると感じた。

大学院教育では、とりわけ博士課程において看護学の神髄を探究する非常に洗練された教育内容であった。本学の看護学専攻の博士課程は2006年4月に開設して現在6年目であり、課程としては成熟の途上である。博士課程の教育内容に関しては国内外の看護系大学の情報を集め、グローバルスタンダードの点から内容を洗練する必要を感じた。

病院見学においては、入院児の同胞のケア、親子の絆づくり、未熟児の発達促進などの取り組みを見聞し、ファミリーケア、ディベロップメンタルケア及び子どもの権利を尊重した具体的な姿を知ることができた。現在、小児看護分野

では子どもと家族の権利を尊重したケアについて教育をしているが、子どもが入院・通院する我が国の病院のハード面には限界があつて彼らの権利が尊重され難い状況を散見している。そのため、看護師が子どもと家族を尊重するマインドを維持することも難しくなりやすい。しかし、大学院生、とりわけ本学で養成している専門看護師コースの修了生が中心となつて、こうした教育と実践のギャップを埋めていく地道な取り組みに携わっていくことが期待された。今後、学生、若手教員がUAをはじめ、海外の研究機関等とアカデミックな交流を持ち成長の糧にしていくことを願う。

今回の研修では、札幌医科大学学術振興会の助成金を得ました。研修に際して乾公美保健医療学部長、大日向輝美看護学科長、看護学科教員の皆様に支援を頂きました。University of Alberta, Global Nursing OfficeのDr. Sylvia Barton, Ms. Leanne Johnson, Ms. Carmen Pallettに研修の調整、支援をいただきました。大学院生の山根弘子さんにも深謝いたします。

本報告における写真の使用には、部門担当者より許可を得ています。

文 献

- 1) Williams, B., Spiers J., Fisk A., et al.: The influence of an undergraduate program/ context based learning program on evolving professional nursing graduate practice. *Nurse Education Today* 32 : 417-421, 2012
- 2) Grad Program Manual-University of Alberta.<2012. 10.24. アクセス><http://www.gradstudies.ualberta.ca/>
- 3) エドガー・デール：学習指導における聴視覚的方法（上巻）. 有光成徳訳. 東京、政経タイムズ社出版部, 1950, p57-74
- 4) University of Alberta Faculty of Nursing.<2012. 10. 16. アクセス><http://www.nursing.ualberta.ca>
- 5) University of Alberta International students studying in Canada.<2012.10.16. アクセス>http://admissions.ualberta.ca/Resources/~media/recruitment/Publications/2013-14/MapleLeafViewbook_2013-14.pdf